

児童福祉司

01

ロング版  
インタビュー



FEATURE

児童相談所で児童虐待や子どもの問題行動、非行等に関して、子どもや保護者と協働して、家庭を訪問します。問題解決に向けて保護者だけでなく、保育所や学校、行政ほか様々な社会資源を活用しながら、子どもが安心して暮らせるように生活する環境を整えていきます。

子どもを中心に展開する支援。安堵の表情が仕事のやりがいになります

千葉県外の大学の保育士養成学科で学んだ際に、児童養護施設や児童相談所で実習したことをきっかけに、子どもの心の深いところまで支えていきたいと児童福祉の専門職を志しました。中でも千葉県で働く決め手は、児童に特化した福祉職として活躍できることでした。日々、子どもと保護者に面接を行い、少しずつ支援を積み重ねていますが、状況が変化し、支援内容を切り替えなければならないことも。また、困難な事態に直面するなど、楽な仕事ではありませんが、子どもが安堵した表情を見せた時は、支援者としてモチベーションが上がります。児童相談所をはじめ児童養護施設など様々な活躍の場があるのも千葉県で働く魅力です。今後も様々なことに挑戦し、子どもたちを笑顔にしていきたいです。

平山 由佳さん  
市川児童相談所  
船橋支所 勤務

H31年採用 君津児童相談所 児童指導員/R3 君津児童相談所 児童福祉司/R5 市川児童相談所船橋支所 児童福祉司

# 児童福祉の現場を支える5つの専門職

## 連携しながら子どもが安心できる環境をつくる

千葉県では、様々な領域で児童福祉に携わる専門職が活躍しています。高い専門性と豊かな人間性を養っている仕事や職場が千葉県ならではの強み。ここではそれぞれの職種の仕事内容や現場の職員がどのような気持ちで携わっているのかなど、リアルな声をご紹介します。

ロング版  
インタビュー



保育士

02

FEATURE

児童相談所の一時保護所や児童養護施設、児童自立支援施設で、子ども達の生活支援を行う専門職です。子どもの年齢に合わせて基本的な生活習慣を習得させたり、子どもの特性や背景に配慮しながら、適切な関わり方をチームで考え、アプローチします。また、学習や運動、季節ならではの行事の企画実施も行い、子どもの成長をバックアップします。

チームアプローチにより、子どもたちそれぞれに合った保育を実現しています

私は保育士として児童相談所の一時保護所で働いています。幼児から高校生までの幅広い年齢の子どもを対象とし、生活支援に始まり、学習支援、健康管理など様々な側面から支援に携わっていますが、一時保護所なので、子どもを預かるのは原則2ヶ月間。短期間に子どもの特性を把握し、個性に応じた関わりが求められます。支援の仕方は一つではないので、職員それぞれが持つ個性や強みを活かせることもこの仕事の魅力です。短期間であっても生活を共にしている中でわずかでも子どもの成長が感じられると感動します。最近では入所することの文化的背景や宗教、アレルギー、発達障害など様々な要因に配慮することが求められますが、専門職としての引き出しが増え、子どもたちにより質の高い支援ができると思います。

青山 智里さん  
中央児童相談所 勤務

H25年採用 富浦学園 保育士/H27 中央児童相談所 保育士/H30 市川児童相談所 保育士/R2 中央児童相談所 保育士

ロング版  
インタビュー



児童心理司

古谷 健人さん  
柏児童相談所 勤務

R2年採用 柏児童相談所 児童心理司

FEATURE

心理学的な視点から子どもに関わる専門職。子どもや保護者との面接や知能検査および心理検査を実施した結果を踏まえて、子どもの状態をアセスメントし、今後の支援の方向性の裏付けとします。また、心理教育やプレイセラピー等の心理療法も行っています。

経験を問わず、意見を尊重される。その期待に応えるため、日々自己研鑽です

前職は自治体の一般行政職だったのですが、社会人になって児童心理に関わりたいたいの思いが募り、通信制の大学院で心理を学んでいる過程で入庁。大学院の最終学年は現在の職場の協力を得て働きながら修了することができました。心理専門職として行う知能検査や心理検査は、大学院で学んできたものの、いきなり実施するのではなく、職場で数ヶ月かけて指導を受けることができました。面接や検査をしてアセスメントした結果は、今後の支援に大きく影響を及ぼすものなのでプレッシャーはありますが、自分の意見をしっかりと反映させられる点で、専門性を活かすことができ、大いにやりがいを感じます。今後もさらに自己研鑽し、子どものために役立つ専門職として力を上げていきたいです。

04

FEATURE

児童相談所の一時保護所や児童養護施設で、主に幼児から高校生までの子どもを対象として、生活支援と自立に向けた支援を行う役割です。家事全般や、学習指導、時には相談相手になる等生活視点から子どもをサポートします。支援計画を考えるため、児童相談所や学校との調整も行います。

真正面から子どもたちに向き合い、時間を共有する中で成長をサポートしています

もともと小学校教員を目指していたのですが、大学の同期からの誘いで児童相談所での学習指導に携わることになりました。4年経過した時、上司から「児童指導員として働いてみない？」と声をかけられたのがきっかけで、入職しました。一つ屋根の下に幅広い年齢の子どもたちが暮らしていますが、これまでの生育環境がそれぞれ異なるので自分自身の既成概念を取り払って、一人ひとりの子どもたちに誠実に向き合うことを心がけています。中々職員の伝えたいことがうまく伝わらないことも多いのですが、関わりを重ねていくうち、「ありがとう」と言ってくれる時はこの仕事をやってよかったなと思います。自立に向けて進路が決まったり、施設の卒園後も就職先で頑張っている様子を聞けると、嬉しい気持ちが込み上げてきます。

ロング版  
インタビュー



児童指導員

大久 美江さん  
富浦学園 勤務

H29年採用 君津児童相談所 児童指導員/R1 富浦学園 児童指導員

ロング版  
インタビュー



児童自立支援専門員

河北 隼人さん  
生実学校 勤務

H30年採用 生実学校 児童生活支援員/R3 生実学校 児童自立支援専門員

FEATURE

児童自立支援施設で家庭環境等から生活指導が必要となる子どもを入所または通所により支援する専門職員です。様々な事情を抱えた子どもたちが、日々の学習や活動を通じ、支援者や他の子どもと共に活動を行うことで、自立に向けた成長を目指します。また、退所した子どものフォローも行います。

未来をたくましく生きる強さを、集団生活を通して育めるよう伴走しています

民間、公立の保育所で保育士として働いていると、家庭環境をはじめ子どもを取り巻くさまざまな課題について知る機会が多くありました。そんな中、児童相談所で働いている同級生から話を聞き、自分ができることがないかと思い、入職を決めました。最初は保育士として生実学校で経験を積み、児童自立支援専門員の試験にチャレンジしました。主な仕事は生活支援、学習支援、作業支援の3つに分けられ、子どもと一緒に取り組んでいます。私が大事にしているのは、何が得意何が苦手なのかを把握し、寄り添うことです。子どもたちは、ここでの生活を経て、いずれ社会に戻り、円滑に生活していけることが目標です。支援員である大人も苦手があることを開示して、「この安心安全な場でたくさん失敗して学び、巣立って行ってほしい」と願いながら子どもに向き合っている日々です。

05